

平成 23 年度活動報告・ミニパネルディスカッション

「企業の災害支援活動の取り組み」

(日時)

2011年5月18日(水)
15:00~16:30

(場所)

長野市ふれあい福祉センター 4階 和室

東日本大震災や長野県北部地震の復興支援を目的に、3月に「長野市災害ボランティア委員会」が発足した。4月以降、毎週木～日曜日まで、岩手県大槌町にボランティアを派遣している中で、企業としてできることを考える。

パネリスト 五明 誠司氏 株式会社シューマート
蜜沢 大輔氏 シガ美容室
高沢 千明氏 東日本システム建設株式会社
込山 哲也氏 ソニー生命保険株式会社・支援ネットワーク副会長(コーディネーター)



五明氏 : 防寒靴・スリッパ・子ども靴・長靴・スニーカーなどを東北・陸前高田市や茨城県、栄村の被災地などへ寄付。ツイッターやニュースからも情報収集した。

蜜沢氏 : 長野に避難してきている被災者の方々へ、美容無料サービスを行った。道具を送るなど、現在は東北の美容関係者も応援している。美容室はリラックスできる場。話し相手や情報交換の場にもなる。

高沢氏 : 企業としては、社員による義援金やボランティア休暇で応援している。

フロアより : 支援ネット会員ブラットさんから、ボランティアに行ってきた方々へ入浴券の寄付があった。

被災地へ、義援金や紙おむつ等の寄付をした。

会社帰りにボランティアできるよう、ボラセンでプログラムをつくっている。

ボラ参加者 : 泥水を捨てるなどの作業の他、避難所の炊き出し、仮設住宅への引っ越しなど活動内容は変化している。今後はメンタル的な支援も増えると思われる。

まとめ : 大切なのは、本業だけでなく、人として何ができるか。人を巻き込んで活動していくこと。企業は、「地域の生活者、社会人として何かしたい」という社員一人一人の気持ちを活動につなげていくという支援の仕方もある。

被災地支援は、継続することに意義がある。企業の社会貢献意識は、市民一人一人のボランティア意識啓発や、地域活動の継続にも有効である。